

HCGモチダ筋注用3千単位
HCGモチダ注射用5千単位
HCGモチダ注射用1万単位

【この薬は？】

販売名	HCGモチダ筋注用 3千単位 HCG MOCHIDA for Intramuscular Injection 3,000 units	HCGモチダ注射用 5千単位 HCG MOCHIDA for Injection 5,000 units	HCGモチダ注射用 1万単位 HCG MOCHIDA for Injection 10,000 units
一般名	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン Human Chorionic Gonadotrophin		
含有量 (1アンプル中)	3,000単位	5,000単位	10,000単位

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・この薬は、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・女性に対しては、卵巣に働きかけ、卵胞の成熟や排卵の誘発、黄体の形成を促します。
- ・男性に対しては、精巣に働きかけ、男性ホルモンの産生ならびに精子の形成を促します。
- ・次の目的で、自己注射のため処方されます。

生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化

一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化

- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

〈製剤共通〉

無排卵症（無月経、無排卵周期症、不妊症）

機能性子宮出血

黄体機能不全症又は生殖補助医療における黄体補充

停留睾丸（こうがん）

造精機能不全による男子不妊症

下垂体性男子性腺機能不全症（類宦官症（るいかんがんしょう））

思春期遅発症

睾丸（こうがん）・卵巣の機能検査

妊娠初期の切迫流産

妊娠初期にくり返される習慣性流産

〈注射用5千単位、注射用1万単位〉

生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化

一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化

〔卵巣機能検査の場合〕

- ・この薬は、ヒト卵胞刺激ホルモン（F S H）製剤と併用されることがあります。

〔自己注射する場合（生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合）〕

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- この薬を不妊治療に使用した場合、脳梗塞や肺塞栓を含む血栓塞栓症（激しい頭痛、胸の痛み、激しい腹痛、足の激しい痛みなど）などを伴う重篤な卵巣過剰刺激症候群（お腹が張る、吐き気、体重増加、尿量が減るなど）があらわれることがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。

○次の人は、この薬を使用することはできません。

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・アンドロゲン依存性悪性腫瘍（前立腺がんなど）のある人およびその疑いのある人
- ・過去に性腺刺激ホルモン製剤で過敏症のあった人
- ・性早熟症のある人

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における黄体補充、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

- ・治療していないまたは治療を要する血栓塞栓性疾患のある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・前立腺肥大のある人
- ・エストロゲン依存性悪性腫瘍（乳がん、子宮内膜がんなど）のある人およびその疑いのある人
- ・過去に乳がんになったことがある人
- ・血縁に乳がんになった人がいる人、乳房にしこりがある人、乳腺症のある人、乳房レントゲン像に異常がみられた人
- ・未治療の子宮内膜増殖症のある人
- ・子宮筋腫のある人
- ・子宮内膜症のある人
- ・てんかん、片頭痛、喘息、心疾患のある人
- ・骨成長が終了していない可能性がある人、思春期前の人
- ・血栓塞栓症がおこる危険性が高い人（患者さんや家族の方が過去に血栓塞栓症を経験したことがある場合など）
- ・腎臓に障害のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○この薬の使用前に患者さん及びパートナーの検査が行われます。

特に、甲状腺機能低下、副腎機能低下、高プロラクチン血症、下垂体または視床下部腫瘍などのある人は、それらの疾患の治療が優先されます。

〔生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○この薬の使用前に以下の検査が行われることがあります。

- ・超音波検査
- ・血清エストラジオール濃度を測定するための血液検査

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における黄体補充、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○この薬を使用する場合に予想される危険性や注意すべき症状について十分理解できるまで説明を受けてください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、使用する量および回数は、次のとおりです。

目的	使用量・使用回数
生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化	5, 000単位を単回皮下注射します。患者さんの状態に応じて投与量を10, 000単位とされることもあります。
一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化	

●どのように使用するか？

- ・この薬は皮下に注射します。具体的な使用方法については、末尾の「自己注射の方法」、本剤の「在宅自己注射説明書（自己注射の手引き）」を参照してください。
- ・使用後の注射針は、そのまま容器等に入れて子供の手の届かないところに保管してください。

〔生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化の場合〕

- ・採卵の34～36時間前を目安に投与してください。

●使用し忘れた場合の対応

注射を忘れた場合は、ただちに医師に連絡して指示を受けてください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法などは、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における黄体補充、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○本剤投与により卵巢過剰刺激症候群があらわれることがあります。

- ・一般不妊治療の場合は、排卵誘発中およびこの薬の使用前に超音波検査により、卵巢の反応を確認します。
- ・生殖補助医療の場合は、調節卵巢刺激中およびこの薬の使用前に超音波検査や血液検査により、卵巢の反応を確認します。
- ・自覚症状（下腹部の痛み、お腹が張る、吐き気、腰痛等）や急激な体重増加が認められた場合にはすぐに医師等に相談してください。
- ・治療中は、超音波検査等により卵巢の大きさが確認されます。

○卵巢過剰刺激症候群の徴候が認められた場合には、この薬の使用の延期または中止について、慎重に判断されます。また、少なくとも4日間は性交渉を控え、避妊する必要がある場合がありますので、医師の説明を受けてください。卵巢過剰刺激症候群は急速に重症化することがあるため、この薬を使用後少なくとも2週間の経過観察が行われます。

○一般不妊治療の場合、卵巢過剰刺激の結果として、多胎妊娠*の可能性がありますが。

*：多胎妊娠：二人以上の胎児が同時に子宮内にいる状態

〔無排卵症（不妊症）、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○排卵誘発を受けた人は、自然妊娠に比べて多胎妊娠・出産（大部分は双生児）の頻度が高くなることがあるので、この薬を使用する前には超音波検査によって十分に観察され、多胎妊娠が予想された場合、治療が中止されることがあります。

〔自己注射する場合（生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合）〕

○使用方法および安全な廃棄方法について、次のことについて十分に理解できるまで説明を受けてください。

- ・このお薬を注射後、副作用と思われる症状があらわれた場合や自己投与の継続が困難な場合には、直ちに自己投与を中止し、医師または薬剤師に相談してください。
- ・使用済みの注射針あるいは注射器を再使用しないでください。
- ・すべての使用済みの器具については、安全な廃棄方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・使用する前に、この薬の「在宅自己注射説明書（自己注射の手引き）」を必ず読んでください。

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

○授乳している人は医師に相談してください。

○他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
卵巣過剰刺激症候群 らんそうかじょうしげきしょうこうぐん	お腹が張る、吐き気、体重増加、尿量が減る

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、体重増加
頭部	めまい、意識の消失
顔面	顔面蒼白（そうはく）
口や喉	吐き気
腹部	お腹が張る
手・足	手足が冷たくなる
尿	尿量が減る

【この薬の形は？】

販売名	HCGモチダ筋注用 3千単位	HCGモチダ注射用 5千単位	HCGモチダ注射用 1万単位
性状	白色～淡黄褐色の粉末または塊		
容器の形状			

【この薬に含まれているのは？】

販売名	HCGモチダ筋注用 3千単位	HCGモチダ注射用 5千単位	HCGモチダ注射用 1万単位
有効成分	日局 ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（ヒト（妊婦）尿由来）		
添加剤	乳糖水和物（ウシ乳由来）		
添付溶解液	日局 生理食塩液		

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・凍結を避けて冷蔵庫などの涼しいところ（1～15℃）で保管してください。
- ・外箱開封後は光を避けて保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

- ・使用済みのアンプルや注射針については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：持田製薬株式会社（<https://www.mochida.co.jp/>）

くすり相談窓口

電話：0120-189-722

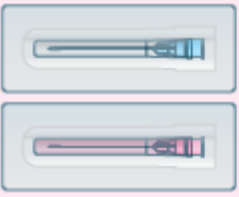
受付時間：9：00～17：40

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

自己注射の方法

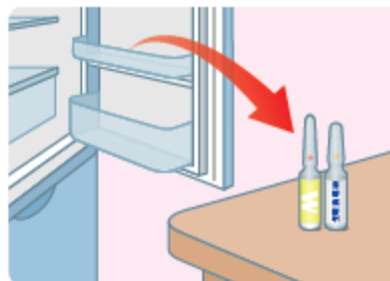
[注射前の準備]

① 準備するもの

 5千単位 1万単位 アンプル HCGモチダ注射用の粉末 又は塊が入ったもの ※処方されるアンプルは人により異なります。	 生理食塩水 1mL 生理食塩水 2mL アンプル 添付溶解液が入ったもの	 注射用のシリンジ
 注射針 お薬を作るために使う針: 1本、 注射するために使う針: 1本	 アルコール綿	 廃棄容器

② 冷蔵庫から取り出して、常温に戻す

薬液が冷たいまま注射すると、注射時の痛みが強くなるおそれがあります。
注射の前に冷蔵庫から取り出し、常温に戻しておきます。



③ テーブルの準備をします

十分な広さと明るさがある平らな場所を確保します。
アルコール綿などでテーブルの上を拭いて清潔にします。



④ 手洗いを行います

注射に必要なものを準備したら、石鹸を使って両手をよく洗います。

● 手洗いの順序



① 石鹸をつけて、手のひらをよくこする。



② 手の甲を伸ばすように洗う。



③ 指の先、爪の間もよく洗う。



④ 指の間、指の付け根を洗う。



⑤ 手のひらで親指をねじり洗いする。



⑥ 手首も忘れずに洗う。

⑦ 流水で十分にすすぎ、ペーパータオルでよく拭き取る。

手洗いのポイント

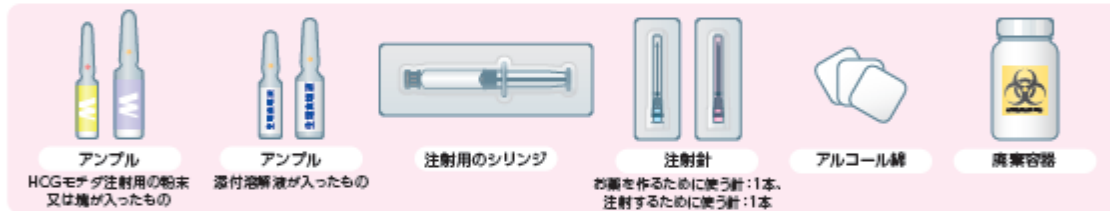
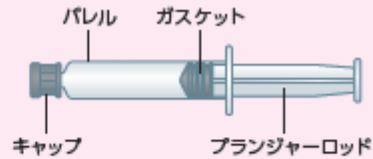


- 手を洗う前に時計や指輪は外しておきましょう。
- 爪は短く切っておきましょう。
- 少なくとも15秒くらいはこするようにしましょう。
- 指先や爪の周り、指の付け根、親指の周り、手首、手のしわなど、汚れが残りやすい部分は特に念入りに洗いましょう。
- 共用のタオルはバイ菌の温床となっているので使わないようにします。使い捨てのペーパータオルを使いましょう。

① 必要な器具を準備します

アンプル (HCGモチダ注射用の粉末又は塊が入ったもの)、アンプル (添付溶解液が入ったもの)、注射用のシリンジ、注射針 (お薬を作るために使う針: 1本、注射するために使う針: 1本)、アルコール綿、廃棄容器を準備します。

● シリンジの各部の名称



② 注射用のシリンジにお薬を作るために使う針を取り付けます

シリンジを包装から取り出す際、包装のプランジャーロッド側を開封します。この時、シリンジの筒先 (注射針を付ける側) には触れないようにします。

- 使用直前に包装から取り出すようにします。
- 使用期限を過ぎたものは使用しないでください。

お薬を作るために使う注射針を包装から取り出す際、シリンジに接続する部分には触れないよう気を付けてください。お薬を作るために使う注射針のキャップは外さずつけたままにしておきます。シリンジの先端に注射針を取り付け、しっかりと固定します。



- 誤って針を指に刺さないよう注意してください。

③ アンプル2本 (HCGモチダ注射用の粉末又は塊が入ったもの: 1本、添付溶解液が入ったもの: 1本) を消毒します

アンプルの胴体と頭の間のくびれているところを新しいアルコール綿で消毒します。HCGモチダ注射用の粉末又は塊が入ったもの: 1本 および添付溶解液が入ったもの: 1本の合計2本を消毒します。



④ アンプル(添付溶解液が入ったもの)を開けます

アンプルの上のほうに溶解液が溜まっていることがありますので、その時はアンプルを軽く指先でたたき、液を下に落としてください。

アンプルには「丸印」があるので、アルコール綿をあてて割ります。「丸印」に指先をあてて自分と逆方向へ割ります。手を切らないように、自分と逆方向の裏面にも必ずアルコール綿をあてて割ってください。



⑤ アンプル(HCGモチダ注射用の粉末又は塊が入ったもの)を開けます

アンプル(添付溶解液が入ったもの)と同じように割って開けてください。

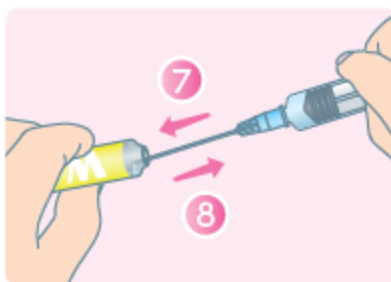
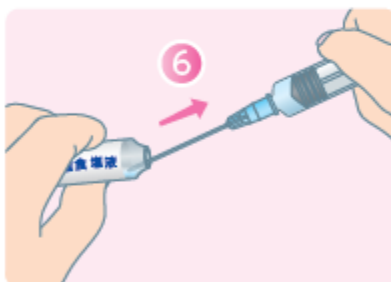


⑥ 注射器に溶解液を吸い上げます

⑦ 吸い上げた溶解液をもう1つのアンプル(HCGモチダ注射用の粉末又は塊が入ったもの)に入れて中身を溶かします

固形の薬剤が残らないように注射針でよく混ぜてください。また、よくかき混ぜた後、異物などがいないか薬液の状態をよく確認してください。異物が見られた場合は使用しないでください。

⑧ 出来上がった注射液をもう一度注射器で吸い上げます



9

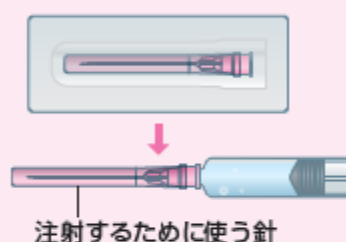
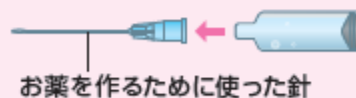
注射針（お薬を作るために使った針）を取り外し、 注射針（注射するために使う針）に付け替えます

- お薬を作るために使った針を取り外す際は、針で指などを刺さないように注意してください。またプランジャーロッドを押さないように注意してください。取り外した針はすぐに廃棄容器に廃棄してください。

注射針を包装から取り出す際、シリンジに接続する部分には触れないよう気を付けてください。注射針のキャップは外さず付けたままにしておきます。

シリンジの先端に注射針を取り付け、しっかりと固定します。

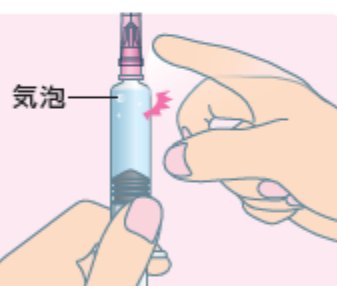
- 誤って針を指に刺さないよう注意してください。



10

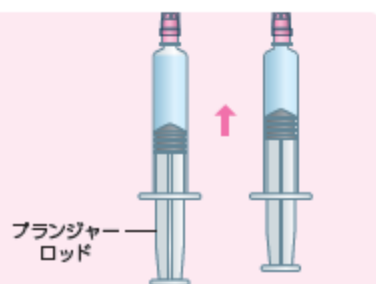
空気抜きを行います

針を上向きにしてシリンジをしっかりと持ち、指で軽くはじいてシリンジ中の空気を上部先端に集めます。



プランジャーロッドを空気が押し出されるまでゆっくりと押し、注射針の先端まで薬液で満たします。注射針の先端に少量の液体が見えるのが目安です。

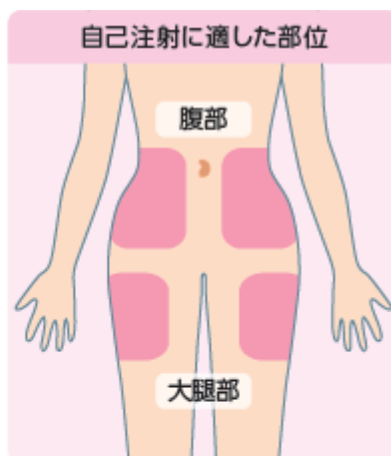
- プランジャーロッドは回さないようにしてください。プランジャーロッドが抜けるおそれがあります。
- 元の位置よりプランジャーロッドを引かないでください。



[皮下注射]

① 注射部位を選択します

- 注射する部位は主治医の指示に従ってください。
- 傷がある、発疹がある、皮膚が硬くなっている部位には注射しないでください。また、おへその周りは避けてください。
- 同じ場所に繰り返し注射すると皮膚が硬くなり、お薬の吸収が悪くなったり、注射時の痛みが強くなったりします。前回の注射部位から少なくとも2～3cm離れた場所に注射し、注射部位を毎回変えてください。



② 注射部位を消毒します

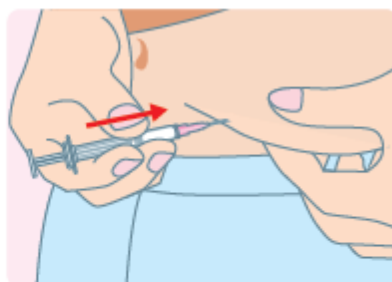
新しいアルコール綿で注射部位を消毒します。



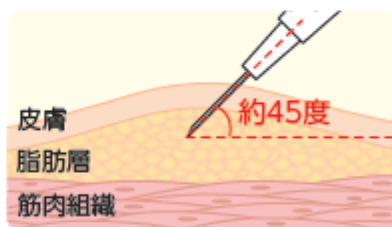
③ 針を皮膚に刺します

皮下注射は、皮膚と筋肉の間にある脂肪層に行く注射です。

注射針のキャップを外した後、片方の手で準備したシリンジを持ち、もう片方の手で注射部位を軽くつまみ、つまみ上げた皮膚の真ん中に約45度の角度で針をゆっくりと刺します。

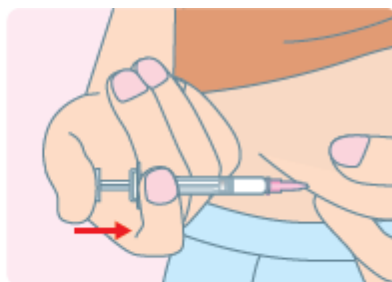


- 注射針はキャップを取り外した後に手や他の物に触れないようにしてください。
- 針を刺したときに激痛、しびれ、血液の逆流があった場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。
- 針先が皮膚を貫通すると抵抗がなくなりますので、針先が皮下に入ったことがわかります。



④ 薬液を注入します

プランジャーロッドをわずかに引いて、血液の逆流がないことを確認します。血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を2～3cm変えて注射してください。次に、プランジャーロッドをゆっくりと押し込み、薬液を注入します。プランジャーロッドを押し込んだら、そのまま数秒程度待ちます。

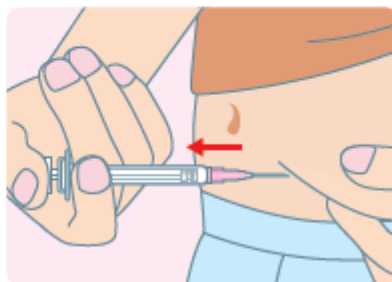


薬液を注入したときに激痛、血液の逆流があった場合、すぐに針を抜き、部位を2～3cm変えて注射してください。

⑤ 針を皮膚から抜きます

指をプランジャーロッドに添えたまま、針を皮膚から抜きます。

- 注射部位から薬液があふれ出た場合、アルコール綿で押さえるようにします。
- 注射部位から出血した場合は出血が止まるまで2～3分間押さえて圧迫してください。ただし、出血が続いたり、痛みが続くような場合には主治医にご相談ください。



⑥ アルコール綿で注射部位を押さえます

注射した場所を新しいアルコール綿で軽く押さえます。

- 注射した場所は揉まないようにします。



⑦ シリンジおよび注射針を廃棄します

医療廃棄物として、廃棄容器に入れて、医療機関の指示に従って廃棄してください。

- シリンジ廃棄の際には注射針は付けたまま、注射針のキャップは付けなおさず、廃棄容器に入れてください。
- 廃棄の際に使用済みの針で指を刺さないように気をつけてください。



① 保管方法

2種類のアンプル（HCGモチダ注射用の粉末又は塊が入ったものと添付溶解液が入ったもの）は、未開封のまま、光を避けて、冷蔵庫などの冷所（1～15℃）で保管します。注射針はお子様の手の届かないところに保管してください。

② 廃棄

使い終わったシリンジと注射針を専用の廃棄容器に入れて保管します。

- 廃棄容器に注射器を入れる際には注射針に再度キャップは付けず、針を付けたまま廃棄容器に入れてください。
- 専用の廃棄容器がない場合は、ふたのついた缶やペットボトルなどの硬い容器でも代用できます。落とした際に割れる可能性があるガラス製の容器での代用は避けてください。
- 廃棄容器は常にお子様の手の届かないところに保管してください。

医療廃棄物として、医療機関で指示された廃棄方法に従って廃棄してください。

- 医療機関により廃棄方法が異なる場合がありますので、まずは処方された医療機関に確認してください。

パッケージやアルコール綿、注射針のキャップ等は、各自治体の廃棄方法に従ってご自宅でごみとして出していただいてもかまいません。

